



ごしょうの一大事 いのちあらんかぎり ゆだんあるまじき事

『道宗心得二十一箇條』の第一條。

「ごしょうの一大事」とは「浄土に往生すること」をただ一つの願いとして、生きること。そのためには命のある限りは油断してはならないと、自戒の言葉として述べている。

四十八本の割り木の上で寝たという道宗、それは修行の為ではなく「愚かな私が念仏一つで助かるという」もったいなさを、一時も忘れんがためのことであったという。目が覚めるたびに報恩感謝のお念仏申し、「後生を願った」と言われている。

私たちはこの世に生を受け、いったい何を生きる目的として生きているのだろうか。当てにならないものを当てにして、一喜一憂しているだけではないのだろうか。「**今日とも知らず、明日とも知らず**」を他人事としてはいないだろうか。道宗のこの言葉をかみしめてみたいものだ。

足しげく通ったとされる
綽如上人開墓の瑞泉寺
桜も満開となつて。



幼き頃に両親を亡くした赤尾道宗は、仏法に出逢えた喜びを後生の一大事とし、明日は無いと一日一日真剣に生きて行かれたそうです。そんな同宗の生き様を**行徳寺**の坊守様からお聞きして、**明日がある、明日がある**と思ひ、感謝する心も感動する心も忘れて生きていく自分を情けなく思いました。命を粗末にしてはいけない。今こうして生かされていることに感謝して生きて行きたいと考えさせられた旅となりました。

特集

平成二十六年四月十五日(火)

一行徳寺 五箇山 菅沼 瑞泉寺

参加者 二十四名

「妙好人」を訪ねての旅

TR



幼き頃に両親を亡くした赤尾道宗は、仏法に出逢えた喜びを後生の一大事とし、明日は無いと一日一日真剣に生きて行かれたそうです。そんな同宗の生き様を**行徳寺**の坊守様からお聞きして、**明日がある、明日がある**と思ひ、感謝する心も感動する心も忘れて生きていく自分を情けなく思いました。命を粗末にしてはいけない。今こうして生かされていることに感謝して生きて行きたいと考えさせられた旅となりました。



棟方志功の版画。これは和紙にコピーされたものです。

AR

瑞泉寺の荘厳な佇まいに圧倒されました。何度もの火災に遭いながら、信心の力によってさらに立派に再建されたこと知り、当時の弱く貧しい民の血の滲むような力の結集に大きな感動をいたしました。ただただ念仏にすがり生きて行く人々の民の篤い

YM

今回の研修で心に感じた次の三点を心に修めて今日の一日を大切に過ごさせてくださいたいと思います。
一、雨の日も風の日も仏様と共に歩む
二、目が覚めると念仏が唱えられる、感謝の
三、仏法には明日がないと思つて生きる
念仏の生まれる生活を共に
手を合わせる生活をしましょう。



遺徳館で坊守さんの説明を受ける



行徳寺駐車場より 写真提供 大江 豊氏

